



皆既終了直後の風景

復円中

いつの間にか皆既が終了し、次第に復円してきました。皮肉にも、それと共に雲の量も減ってきました。こうして日食観望は終了しましたが、いわゆる日食病に罹った様です。やはり雑誌などで見る素晴らしいコロナを、この眼で見たいと強く思いました。次回の日本での皆既日食は2035年という事ですが年齢的にも難しい様です。それまで待たずに元気な内に、海外に出かけて見たいと思ったりもしています。

特集日食報告

大阪府寝屋川市における日射量の測定データ

溝井浩（大阪電気通信大学）

部分日食観測会の報告

2009年7月22日には、大阪電気通信大学の工学部・基礎理工学科主催による部分日食観測会が、寝屋川キャンパスにおいて開催されました。学内外から300名余りの方が参加されました。当日はあいにくと、朝から曇り空で、 $H\alpha$ 太陽望遠鏡などの観測機材を用意していましたが、出番はありませんでした。それでも、ときおり薄い雲越しにうっすらと姿を見せる太陽が、欠けていく様子を、肉眼で観察することができました。最大食に近いときに撮影した写真を図1に示します。また、硫黄島からのインターネット中継[1]を大型テレビで放映し、皆既日食をライブで観察することができました。

観測会終了後に、本学の実験棟屋上に設置された気象計のデータを調べ

☆・大阪府寝屋川市における日射量の測定データ・☆

たところ、図2に示すような日食の影響と思われる日射量の変化が記録されていました。図2では、7月22日のデータを実線で示しています。また、比較のために同様の曇り空であった8月6日のデータもプロットしました。7月22日のデータは、1分おきに測定しているため、雲による日射量の細かい変動が見えています。8月6日のデータは30分おきの測定です。この図からは、通常の曇天による影響とは別に、日食の進行に合わせて日射量が増えている様子が読み取れるかと思えます。

今回はあいにくの天候で十分な観測ができたとはいえませんが、観測会に参加された方々には、貴重な体験ができたと喜んでいただけました。次回、2012年の金環日食では時間帯が早いため難しいかもしれませんが、このような公開の観測会の開催を検討したいと思います。

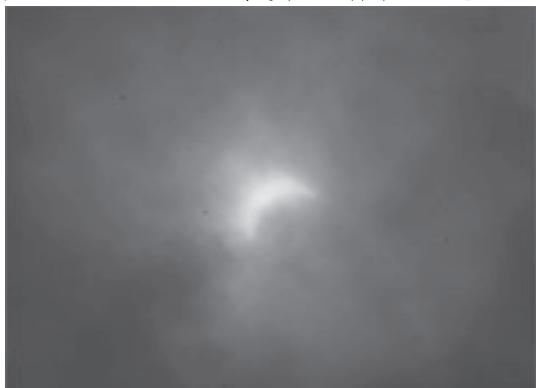
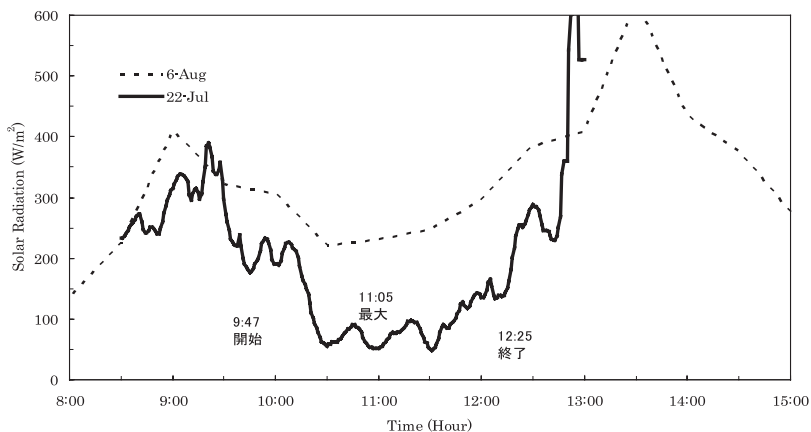


図1 最大食に近い時点での写真

図2 日射量の変化



参考文献

[1] 硫黄島からのライブ中継は（独）情報通信研究機構によるストリーミング配信を受信しました。<http://www.nict.go.jp/>